

ふくしまの森林文化調査カード

No.26

県 HP公開の可否 (可 ・ 否)

区分	1. 森づくり 2. 森の恵み 3. 森と技 4. 森と暮らし 5. 森の文化財 6. 森の風景	
分野(ふりがな)	(分野) 農村歌舞伎	(ふりがな) のうそんかぶき
地域独特の呼び方	—	—
タイトル	歌舞伎のあるところ	
伝承地域	奥会津一円	
由来(年代)	江戸時代に芝居の熱が広まることが出来た大きな理由は、奥会津地方が幕府の直轄地で会津藩預かりなど、支配が藩の直接ではなく、自由度が高かったことが挙げられる。もう一つの理由は、かつて、奥会津と呼ばれる地域は麻取引で賑わった。買い付けには遠く上方の商人もやってきた。その結果富を手に入れる人々が出現する。江戸や上方の商人にとってこの地は決して辺境ではなかったろう。	
内容	奥会津で、芝居・歌舞伎と言えば桧枝岐村ということになるが、隣の南会津町(旧伊南村)の大桃地区にも国が有形民俗文化財として指定する舞台がある。場所は駒ヶ嶺神社の境内である。旧伊南村にはほかに宮沢地区と耻風地区にそれぞれ舞台が残されている。また、中心地の古町地区には組立式の舞台が残されている。南会津町の奥会津博物館が調査した結果では、奥会津には62の舞台と43の歌舞伎一座があった。現在も続いている桧枝岐の芝居は膨大な奥会津を中心とした芝居の文化の本の一部が表出して私たちの目に触れているにすぎない。国指定になっている田島の祇園祭には屋台のうえで芝居が上演されることはよく知られている。この芝居も大きな芝居文化圏の輪のひとつであることが理解できる。	
大きさ・材質	(大きさ) —	(材質) —
見頃	—	
交通アクセス	—	
文化財等の指定状況	—	
問い合わせ先	福島県立博物館(Tel:0242-28-6000) 奥会津博物館(Tel:0241-66-3077)	

【フリーフォーマット】

キーワード

◇農村歌舞伎

地芝居、村芝居とも言われ、江戸～明治時代に農民によって行われていた素人芝居。または、その伝統を現在に継承、復活させた歌舞伎をいう。祭礼の奉納行事などとして、江戸時代以来の伝統に則った芝居が各地で上演されていた。

奥会津歌舞伎舞台および一座分布図

